

ガバナンス

オカムラグループでは、サステナビリティ戦略の立案・推進などを適切にマネジメントするためサステナビリティ委員会を設置しています。

サステナビリティ委員会、 全社横断プロジェクトなどの役割

代表取締役を委員長とし、各事業本部およびコーポレート部門を統括する執行役員により構成されるサステナビリティ委員会を設置しています。同委員会では、サステナビリティ戦略の立案・推進などを適切にマネジメントするため、マテリアリティ（経営の重要課題）に関する年度計画を策定、審議・承認し関連部署への展開を図るとともに、重要課題に関するグループ全体の取り組みを推進・サポートし、進捗をモニタリングしています。また、気候変動・生物多様性、人権などを含むオカムラグループのリスク全般（機会・脅威）について、経営・財務などへの影響を考慮し現状リスクの再評価および新規リスクの抽出・評価を行うとともに、重要リスクの特定と見直しを行っています。

同委員会は年2回定期開催しており、審議・決議事項および

活動結果について取締役会に報告し、取締役会において当該報告内容に関する管理・監督を行っています。

サステナビリティ推進部はサステナビリティ委員会の事務局として委員会の運営を行うとともに、承認事項について社内の各組織を通じて事業活動へ展開し、定期的にフォローを行っています。また、全社横断のサステナビリティ推進プロジェクトにおいて、各事業本部の推進フォローおよび従業員への活動の浸透を図っています。

経営層が参加する各種委員会にて ESG 関連の最新事例の共有と審議

サステナビリティ委員会では、ESGに関する最新情報やオカムラグループが取り組むべき事項について、社外有識者や社内専門部門から最新事例などの共有も行っています。

2024年9月には2050年カーボンニュートラルロードマップと現況・DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）関連・人権対応などについて、2025年3月には2024年度のサステナビリティ行動計画（重要課題）の実績および次年度計画・インターナルカーボンプライシングの導入について審議しました。

2024年度に実施した各種委員会などの内容

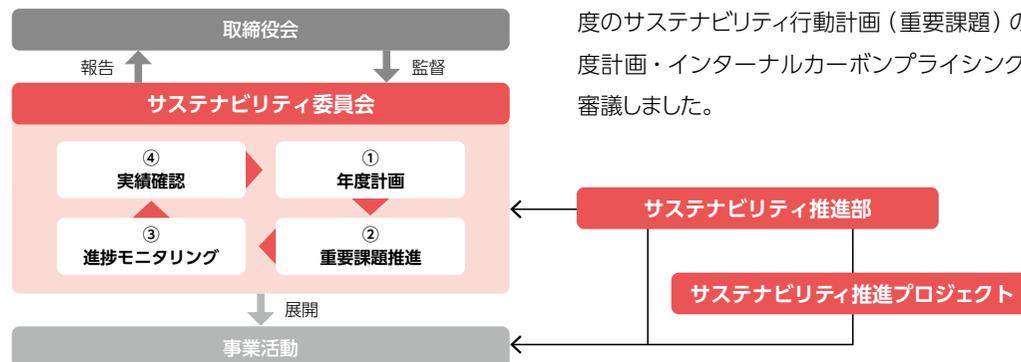
2024年 5月	責任ある鉱物調達方針策定について
2024年 9月	カーボンニュートラル移行計画について 重点対応リスクについて 人権対応について 社会貢献活動について
2024年10月	統合報告書について
2025年 3月	マテリアリティに関する年度計画について サステナビリティ関連財務情報の開示基準について カーボンニュートラル移行計画について 重点対応リスクについて 人権対応について 社会貢献活動について

従業員巻き込み施策の展開

より積極的にサステナビリティ活動に取り組む従業員の育成に向けて、さまざまな施策を実施しています。

2024年度に実施した施策の内容

- サステナビリティ活動表彰（詳細 ▶P.71）
- 従業員の意識や行動を把握するためのアンケート
- 手挙げ式研修・イベント
（詳細 ▶P.16、▶P.67～▶P.68）
- サステナビリティに関するメール配信（月1回）



TOPICS

「知識・理解・体験」から次の「行動」を促す サステナビリティ研修 in 富士山・富士事業所

サステナビリティをキーワードにした 体験型研修

オカムラグループでは、サステナビリティの推進には従業員一人ひとりの意識向上と行動変容が重要だと考えています。「参加者がサステナビリティというキーワードを通じてグループ会社を知り、仲間を知り、自然を体感する」「各自の知識・理解・体験から、次のアクションを考えるきっかけとしたい」という目的で2022年度から始まった「サステナビリティ研修」。2022・2023年度はオカムラグループの生産拠点の一つであるエヌエスオカムラがある岩手県釜石市をフィールドに実施しましたが、2024年度は富士事業所がある静岡県御殿場市を新たなフィールドとして加え、2カ所で開催しました。御殿場市では2024年6月7～8日、釜石市では2024年9月13～14日に実施しました。

営業、生産、設計などさまざまな職種の参加者がそれぞれの地域にある生産事業所を訪れました。生産部門と販売部門がこうした研修を通して相互



源兵衛川のきれいな水と冷たさを体感

理解し交流することで、オカムラの強みである生販（生産・販売）一体をより強化。一体感がさらに深まりました。

富士山の「水」の恵みを学ぶ

富士山の麓にある静岡県御殿場市は、近隣に静岡県三島市があります。御殿場や三島は、富士山や周辺森林への降雨が育む豊富な湧水や伏流水、きれいな空気、そして富士山の地下水熱などに恵まれています。

富士事業所は1970年に設立され、主に商環境事業の店舗用陳列什器やオフィス環境事業のパーティション、物流システム事業の搬送用コンベヤ、自動倉庫など、幅広い事業の製品を製造しています。また、伏流水を地下貯水槽に貯め工業用水や生活用水として利用しています。地域への貢献と、従業員の多くが周辺地域の住民ということも考慮し、2022年11月に御殿場市とオカムラで、この地下貯水槽の水を災害時に生活用水として提供する連携協定を締結しました。

研修1日目は、地域の湧水資源の歴史や保全活動について学んだ後、三島市内を流れる源兵衛川を訪ね、試薬を用いて水質を調査したり、足を入れて川の流れや水の冷たさを体感したりしました。参加者からは湧水は限りある資源であり、自然からの贈り物であることが体感できたという声が寄せられました。

ビオトープから学ぶ「生物多様性」

2日目は、自然との共生を目指した生き物の生息空間「ビオトープ富士」へ。ここは2022年9月に富士事業所敷地内に整備され、自然環境の保全と共に、従業員



ビオトープ富士の取り組みを学ぶ

環境教育の場や地域社会とのつながりの場としての役割も果たしています。定期的に専門家の支援を受け、野鳥や植物調査を実施しており、渡り鳥の大切な越冬地になっていることなどが確認されています。実際に巣作りをするオシドリの様子などを観察し、豊かな自然環境にある富士事業所の「ビオトープ富士」でこそ学ぶことができる生物多様性に触れました。

行動につながる「体感」と「共有」

オカムラグループに縁のある地域の課題や自然を知ること、気候変動や労働人口の減少、後継者不足などの社会課題にも目を向ける機会となっています。体験を通じて得た学びをグループ内で共有しあうことで、自分自身



研修の参加メンバー

の業務や自部門とサステナビリティの関連性に気づき、「行動変容」につながる機会として、サステナビリティ研修を今後も積極的に実施していきます。

